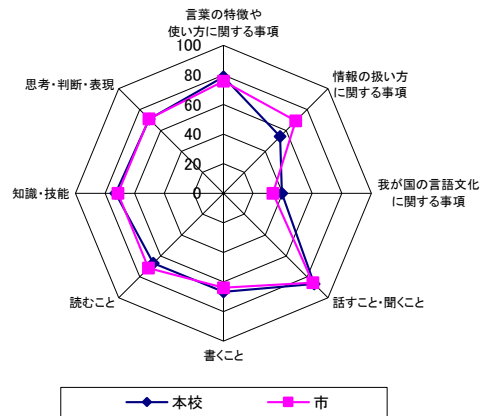


# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	78.7	75.8	77.5
	情報の扱いに関する事項	54.2	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	39.6	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	86.8	85.5	86.5
	書くこと	66.7	63.9	65.8
	読むこと	67.0	71.6	69.5
観点別	知識・技能	72.9	71.3	72.9
	思考・判断・表現	70.8	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

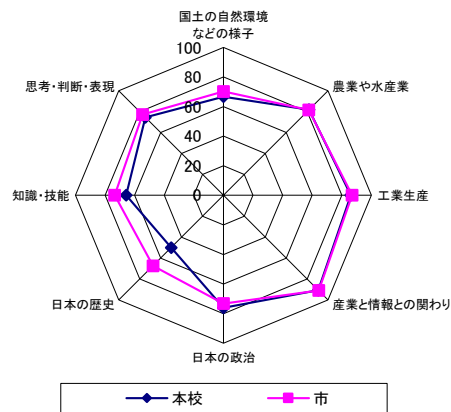
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は78.7%で、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○第5学年に担当されている漢字の書き取りでは、「防災」「支える」という漢字で、市の平均より10.0ポイント以上上回っている。また、1問を除くほとんどの問題で市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●文と文の接続の関係について問う設問は正答率が39.6%で、市の平均正答率を3.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の学年で担当されている漢字の定着に加え、既習漢字の復習を朝の学習で取り入れる活動を継続する。</li> <li>文章を書く中で、既習の漢字を意識して使えるようにする。</li> <li>日頃から文章の中の接続詞に着目させ、前後の文との関係を確認する。</li> <li>作文指導の際に、接続詞の例示を行うだけでなく、文末表現や接続助詞についても添削などで提示する。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は54.2%で、市の平均正答率より低い。</p> <p>●原因と結果を結びつける情報の関係について問う設問では正答率が54.2%で、市の平均正答率より14.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を読んだり書いたりする中で、何が原因で何が結果になっているか等、つながり意識できるようにする。また、文章中で入れ替えても原因と結果を的確に捉えられるよう、関係を整理して提示する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率より高いが、9.6%と低い。</p> <p>○和語・漢語・外来語について問う設問では、市の平均正答率を6.1ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨今、略語や海外発信の言葉を多く日常使用することが増えているため、古典作品などを取り扱う際に、「古語→現代語→流行語」という変遷に触れることで、同じ意味でも異なる表現を用いていることを理解させる。</li> <li>興味を惹くためにも、現在の児童が用いている言葉とともに和語や漢語を紹介することで、身近なものとして捉えられるようにする。</li> <li>読書や読み聞かせ、言葉遊びなどの活動を通して、言葉への興味関心を高める。</li> <li>新出漢字の学習をする際、音読みと訓読みの違いを確認し、和語と漢語の違いの理解に繋がれるようにする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は86.8%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○知りたいことについて話の内容を捉え、記述する設問では、市の平均より7.3ポイント上回っている。</p> <p>●意図に応じて質問を工夫する設問では、市の平均正答率を3.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での話し合いやスピーチなどの場面で互いに質問し合うような活動や、インタビューなどの何かを尋ねるような場面でのより良い伝え方を学ぶ活動など、実践的な活動を多く取り入れる。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は66.7%で、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○作文の書き方のきまりを守り、自分の意見とその根拠を明確にして書くことやよさ王される反論に対する意見を書くことなど「作文」の設問では、どの項目も市の平均正答率を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●文章の内容を簡潔にまとめる設問では正答率が37.5%で、市の平均より10.1ポイント下回っている。自分自身が考えたことを文章にする力は少しずつ成長している。しかし、それを簡潔にまとめる「要約」の力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文指導の際に自分自身の作文の重要な部分をまとめ、要約する活動を取り入れるようにする。文章の要点に線を引いたり、抜き出したりする学習を普段の授業から行っていくことで、要約する力を育てる。</li> <li>条件のある作文課題に取り組みさせることで、条件に合わせて文章を書く練習をさせる。条件は簡単なものから、慣れてきたら徐々に発展させていき、書くことへの抵抗感を減らす。</li> <li>資料を読み取る力が付くよう、社会科や算数等の他教科との関連性を意識して指導を行う。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は67%で、市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>○説明文の文章構成や、情報を整理して記述する設問では、どちらも市の平均正答率より6ポイント以上上回っている。</p> <p>●説明文で叙述を基に文章の内容を捉える設問では正答率が25%で、市の平均正答率を25.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読むことに慣れるためにも、学校図書館等を活用して多くの文章に触れる機会を低学年から積極的に・意図的に増やしていく。</li> <li>「書くこと」と同様に要約する活動を取り入れることで、「書くこと」と「読むこと」の両方を力の向上を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.7	70.3	66.4
	農業や水産業	81.9	81.6	75.3
	工業生産	86.1	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.6	91.0	81.3
	日本の政治	76.0	73.2	75.3
	日本の歴史	50.0	67.4	68.5
観点別	知識・技能	65.8	73.5	72.5
	思考・判断・表現	74.5	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

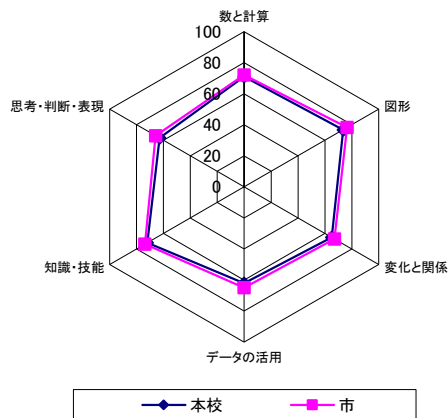
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は66.7%で、市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>○日本の周辺の海洋名についての理解を問う設問では、市の平均正答率より4.9ポイント上回っている。</p> <p>○季節風についての理解を問う設問では、市の平均より4ポイント上回っている。</p> <p>●近年日本で起きた自然災害の発生場所について理解を問う設問では、市の平均正答率より6.1ポイント下回っている。</p> <p>●人工林の役割について理解を問う設問では、市の平均正答率より17.5ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎的な基本的な事項について、自分たちの生活と結び付けて考えられるように映像資料等を活用した授業の展開を図る。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は81.9%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現する設問では、市の平均正答率より4.5ポイント上回っている。</p> <p>●米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る設問では、市の平均正答率より4.5ポイント下回っている。</p>	<p>・47都道府県の位置や地方名についても繰り返し学習して、都道府県ごとの特色及び地図の読み取りに関連付けて理解を深められるようにする。</p>
工業生産	<p>平均正答率は86.1%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○自動車の製造工程についての理解を問う設問では、市の平均正答率より3.1ポイント上回っている。</p> <p>●安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考える設問では、市の平均正答率より5.4ポイント下回っている。</p>	<p>・地図帳や図書資料、または一人一台端末などを使い、映像を用いて、資料と資料を関連付けてまとめる活動取り入れ、理解を深められるようにする。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は90.6%で、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点について考える設問では、市の平均正答率より4.8ポイント上回っている。</p> <p>●情報を生かした産業について考える設問では、市の平均正答率より5.6ポイント下回っている。</p>	<p>・用語の意味を理解しながら学習を進めて行けるように、言葉の意味を丁寧に説明して定着を図る。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は76%で、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○日本国憲法の原則である基本的人権の尊重について理解を問う設問では、市の平均正答率より4.1ポイント上回っている。</p> <p>○法律ができるまでの流れについて、資料を読み取る設問では、市の平均正答率より5.4ポイント上回っている。</p> <p>○租税の役割についての理解をもとに判断する設問では、市の平均正答率より3.8ポイント上回っている。</p>	<p>・基本的な用語を確実に覚えるようにしていき、一人一台端末を使って資料からわかったことを基本的な用語を用いてまとめる学習を継続していく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は50%で、市の平均正答率より低い。</p> <p>●かな文字について理解を問う設問では、市の平均正答率より23ポイントと大きく下回っている。</p> <p>●能について理解を問う設問では、市の平均正答率より26.7ポイント下回っている。</p> <p>●織田信長の業績について理解を問う設問では、市の平均正答率より18.7ポイント下回っている。</p>	<p>・一人一台端末や図書資料、教科書の年表一覧などを使用して、時代ごとに出来事や学習すべき語句などについて押さえるとともに、人物や文化についての繋がりを意識した学習をしていく。</p>

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.0	72.1	74.6
	図形	73.6	76.5	76.1
	変化と関係	65.0	67.1	59.7
	データの活用	62.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	72.0	73.8	74.7
	思考・判断・表現	63.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

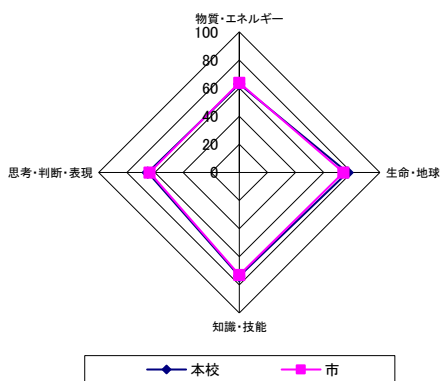
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は71.0%で、市の平均正答率72.1%と同程度である。</p> <p>○小数第一位×小数第一位の計算の正答率が87.5%で、市の平均正答率より7.7ポイント高い。</p> <p>●帯分数×真分数(約分2回)の正答率が64.6%で、市の平均正答率より10.6ポイント低い。</p> <p>●図を使って、小数の乗法の文章問題に合った立式を選択する問題は64.2%で、市の平均正答率73.4%を8.8ポイント下回った。</p>	<p>○各学年において基本的な計算練習を継続し、定着を図る。</p> <p>●数直線やリボン図では、「1に当たる量」を意識させ、「図を見て式を立てる」だけでなく、反対に「式から図をかく」双方の練習をし、数量関係の構造的な理解できるよう指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は73.6%で、市の平均正答率76.5%と同程度である。</p> <p>○三角形の外角を求める問題の正答率が72.9%で、市の平均正答率より6.3ポイント高い。</p> <p>●平行四辺形の面積を求める式に関する問題の正答率が64.6%で、市の平均正答率より10.6ポイント低い。</p> <p>●線対称な図形に対応する点や点対称な図形の選択をする問題の正答率が市の平均正答率より5ポイント程度低い。</p>	<p>○図形の面積や体積を求める公式など、各学年で学習する内容を確実に身に付けられるように、繰り返し指導する。</p> <p>●低学年からの折り紙、切り貼り、敷き詰めなどの具体物を用いた操作活動を重視し、図形の性質を実感を伴って理解させることで、高学年における抽象的な思考へと円滑につなげられるよう指導する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は65.0%で、市の平均正答率67.1%と同程度である。</p> <p>○単位量あたりの大きさを説明する問題の正答率が70.8%で、市の平均正答率より6.8ポイント高い。</p> <p>●単位量あたりの大きさ・速さを求める問題の正答率は、どちらも市の平均正答率より6ポイント以上低い。</p>	<p>●低学年の学習から「何が基になっているのか」を意識させ、数直線や言葉の式を用いて、数値の関係性を構造的に捉える練習を重ねていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は62.1%で、市の平均正答率65.0%と同程度である。</p> <p>●平均・データの見方の問題の正答率が64.6%で、市の平均正答率より6.4ポイント低い。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとにデータを説明する問題の正答率が27.1%で、市の平均正答率より8.4ポイント低い。</p>	<p>●平均やデータを使う具体的な日常場面と学習内容を結び付けるとともに、結果の見当を付けて解く習慣を低学年のうちから徹底して指導する。</p> <p>●グラフの形から特徴を読み取り言葉で説明する機会を、算数に限らず社会科や国語など他教科でも設け、統計的な見方・考え方を育てていく。</p>

# 宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度 aaaaaaa

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.9	63.8	61.6
	生命・地球	77.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	73.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	65.1	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>領域別の正答率は62.9%で、市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。</p> <p>○1(1)「電流のはたらき」で電磁石の性質を問う問題では、正答率が72.9%で、市の平均正答を7.4ポイント上回った。</p> <p>○3(1)「ふりこのきまり」のふりこの周期の測定方法を問う問題では、正答率が68.8%で、市の平均正答率を7.1ポイント上回った。</p> <p>●1(2)②「電流のはたらき」で2つの実験の結果の違いから電磁石の力の強さであることを推測する問題では、正答率が47.9%と低く、市の平均正答率を5ポイント下回っている。</p> <p>●9(1)「水よう液の性質」で、気体が溶けている水溶液についてどう問題では、正答率が18.8%と低く、市の平均正答率を12.3ポイントと大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の始めに使用する実験器具の名称や特性を指導し、正しく安全に使用できるよう、継続的に指導して、基礎基本となる理科の用語を定着させる。</li> <li>用語をキーワードやポイントという言葉で児童に提示物やICT機器で示したり、児童がスケッチや図などを活用してノートにまとめることを推奨したりして、児童が視覚的に分かりやすいまとめ方を身に付けられるようにしていく。</li> <li>問題文で問われていることを十分に考えず、回答してしまう傾向が見られる。何が問われているのか題意を理解できるように、条件の違いなどの観点を示しながら読み取らせる。実験の結果から分かること・そこから導き出せることなど論理的にまとめる活動を多く取り入れ、考えを深められるようにする。</li> </ul>
生命・地球	<p>領域別の正答率は77%で、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。</p> <p>○2(1)「流れる水のはたらき」の侵食の語句の理解を問う問題では、市の平均正答率を17.8ポイントと大きく上回った。</p> <p>○6(2)「動物のからだのつくりとはたらき」の心臓と血液のはたらきについて問う問題では、市の平均正答率を14.8ポイントと大きく上回った。</p> <p>●7(2)「植物のつくりとはたらき」の何を養分として成長するか問う問題では、市の平均正答率を7.5ポイント下回った。</p> <p>●10(3)「月と太陽」の月と太陽、地球の位置関係を理解し月の見える形について問う問題では、市の平均正答率を7.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の特性上、地球についての学習などでは、教材と実際の現象とを丁寧に結びつけるために、ICT機器を活用し、指導を進めていく。</li> <li>生物系の単元では、日頃から興味関心をもてるように、学習以外の環境整備等も含めて生活体験や実験体験の機会を意図的に設けていく。</li> <li>人の体のつくりなど、直接観察や実験が難しい学習では、映像や模型、図書などの資料を活用して情報を集めて整理させると同時に、ノートなどにまとめるなど繰り返し行い、重要語句の定着を図っていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
一人一人が基礎的・基本的な学習を身に付けることができる、学びの連続性を明確にした指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や語句の理解や計算力を付けるための反復練習やミニテストなどの仕方の工夫</li> <li>各教科における重要な語句等の提示と、児童が活用してまとめる学習時間の設定</li> <li>読書活動や国語辞典や漢字辞典を活用した語彙力の強化</li> <li>かがやき教室や日本語教室教員との連携</li> <li>宿題や漢字計算オリンピックの実施による家庭と連携した基礎学力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度は、どの教科においても、記述式の問題に対する無回答の割合が高かったが今年度は無回答の割合が減っており、正答率も国語と理科においては、市の平均正答率を5ポイント以上上回っている。</li> <li>第5学年及び第6学年に配当されている漢字を読んだり書いたりする問題は、市の平均正答率と同等か上回っているものがほとんどである。</li> <li>登場人物の心情について描写をもとに読み取る問題の正答率は12.4ポイント、説明文における叙述を基に文章の内容を読み取る問題の正答率は25.6ポイント市の平均正答率を下回っている。</li> <li>社会科の日本の歴史に対する問題の正答率は、市の平均正答率より17.4ポイント下回っている。</li> <li>算数科と理科における正答率は全体的に見ると市の平均正答率と同程度である。</li> </ul>
思いや意図を共有し、主体的かつ協働的、対話的に学ぶための指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の意欲をもたせる導入の工夫</li> <li>ペアやグループなど、学習形態の工夫と一人一台端末の効果的な工夫</li> <li>考えを伝え合い、話し合う時間の設定</li> <li>安心して話し合い、お互いに高め合える学級集団作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グループなどでの話し合いに自分から参加している」に対する肯定的割合は、3・4・6年生では市の肯定的割合を下回っているが、5年生では市の肯定的割合をやや上回っている。</li> <li>一人一台端末の活用に関する質問の肯定的割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。</li> </ul>
学ぶ楽しさ味わいながら、学ぶ意欲を高めていく指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の学びを振り返り、自己の成長を感じ取ることができる振り返りの工夫</li> <li>児童の興味・関心を高め、学ぶ意欲が持続できるようにするための教材、教具の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的割合は学年によって差が大きい、低い傾向にある。</li> <li>「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」に対する肯定的割合は、3年生は市の肯定的割合を上回っているが、4・5・6年生では市の肯定的割合を下回っている。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 各教科における基礎基本の習得
  - 授業で基礎基本の繰り返し指導指導をするとともに、自分たちの生活と結び付けた活用についても学ぶことができるように教材の工夫をしていく。
  - 一人一台端末の効果的な利用とドリル学習やミニテストなどのバランスを考えた指導を行い、一人一人が基礎基本を身に付けられるようにしていく。
- 書く活動の工夫
  - 各教科における重要語句の理解とそれらを適切に使用した書く活動の工夫と各教科のつながりを意識した指導の工夫をする。
- 自分の考えをもち深めたり広げたりするための対話的な活動の工夫
  - 自分の考えと友達の考えを比較しながら学びを深めるために、ペア学習やグループ学習を取り入れる。
  - 学習の最後に振り返りを行う時間を確保し、自己の学びの成長に気付くことができるようにする。また、一人一台端末を活用するなど、振り返りの仕方を工夫していく。